

3428
3359
1272
3377
1500
1908
1750
購読のお申し込み
0120-026-999
配達・集金お問い合わせ
03-6910-2556
広告のご用命
045-201-1155



横浜

プロ野球セ・リーグの横浜ベイスターズがTBSから「モバゲー」を運営する携帯電話ゲーム大手、ディー・エヌ・エー(DeNA)に売却されることが4日、正式に決まったことを受け、横浜市内の関係者からは「もう一度、ゼロからのスタートだ」「情報技術(IT)らしい運営を」との声が相次いだ。(志村彰太)

○ベイスターズ売却合意で地元

中日がセ・リーグ優勝を決めた横浜ベイスターズのホーム最終戦では、横浜スタジアムに多くのファンが詰め掛けた。10月18日、中日



務局幹事の山本尚志さんは「ドーム実現に向けた話に立っていました」と。その上で「IT企業

「横浜ドーム実現を!!」

うしい新しい考え方で、(イベント企画などに)協力してくれれば」と期待感を示した。

ITらしい運営を／振興策を一新

一九九八年の日本一を機に名付けられた「ベイスターズ通り振興会」も、「マンネリ化した振興策を一新するチャンス」と心機一軒を図る。これまでには、優勝祈念セールをしたり、買い物客にベイスターズのグッズを配ったりしてきたが、吉原皓一郎副理事長(左)は「新経営陣と積極的に話し合って、もっとファンを増やす催しをたくさん企画したい。特にITと絡めた何かができるか期待している」と意欲を見せた。

また、横浜市の林文子市長は「市民が愛するベイスターズというブランドを大切にし、横浜を大いに盛り上げていただきたい」と期待しています」とコメントした。